国際連携推進拠点

国際連携推進拠点長　　田淵　隆一

耳新しい部署名だと思いますが、**国際連携推進拠点**は今年度から中期計画が第二期に入るのにあわせ、これまであった海外研究領域を改組して新設されました。

国際的な研究活動の広がりとともに、研究所として、国際協力事業団（JICA、現在の国際協力機構）の研究協力プロジェクトへの専門家派遣、あるいは農水省の熱帯農業研究センター（現在の国際農林水産研究センター）を通じた少数の研究者による在外研究から始まった森林・林業分野での海外をフィールドにした研究も、現在では多様な分野、内容のものが多数見られるようになってきています。また森林を取り巻く問題も、特定の国や地域にとどまらず、世界的、地球的規模で対応していかねばならないものが増えてきました。例えば地球温暖化などから発生する数多くの環境問題や違法伐採を生み出す背景に関する問題は、困難ですが早急に対処していくことが求められる重要課題です。このような動きに伴って森林総研でも国際的な研究は海外研究領域だけでなく各領域、各研究グループでそれぞれ行なう流れになってきました。しかし個々のプロジェクトは定められた研究期間で終ります。これらの成果を継続・発展させる場合、内容や規模をより発展させたプロジェクトとして企画し、展開していくことが強く求められるようになりました。こうしたことは個々の研究グループだけでは困難な面があります。政府の総合科学技術会議の方針でも、大型プロジェクトを立てて運営していくに当っては、核となる「拠点」を中心に無駄を省き効率良く研究を推進させることが不可欠としています。

さらに国内の大学や他研究所などの研究機関、さらには海外の研究機関とも連携を取り合って国際的なプロジェクト獲得に向けた研究者への支援を行なう場所でなければなりません。

このような目的達成のため、拠点には**国際研究推進室**と**国際森林情報推進室**を設け、さらに**チーム長（熱帯荒廃林担当）**を置きました。国際森林研究機関連合の日本委員会事務局（IUFRO-J）、国際林業研究センター（CIFOR）との連携、アジア森林パートナーシップ（AFP）の事務局などの対外的な連携機能を果たす以外に、研究協力科と相互協力し、研究者と海外組織との協定作りなどの技術面、研究体制の組織化、企画立案の支援を行っていきます。

もちろん拠点に所属する研究者自身も、それぞれの分野における国際的な研究推進のため、外部資金獲得にむけた積極的な応募などの努力を続けています。また森林総研が果たすべき役割を発揮していくためのプロジェクト展開にむけて、まず所内の海外研究を推進している職員たちの相互の連携を密接にしていかねばなりません。森林総研や関連する研究者がこれまで世界各地で進めてきた研究と培ってきた信頼関係を基に、森林を巡る様々な問題に有効に対処するためのネットワークを作り上げていきます。

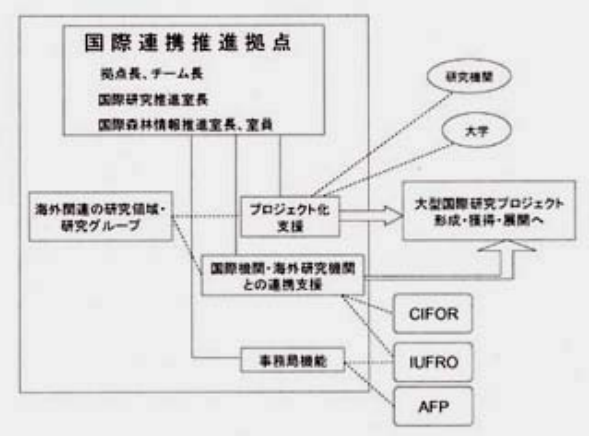

図　　国際連携推進拠点の組織と機能